

調布市家庭系ごみ等詳細組成分析調査（令和4年度）について

1. 詳細組成分析調査の概要

ごみの中身を詳しく調べるため、詳細組成分析調査を以下のとおり実施しました。

- 対象ごみ：家庭ごみ，事業系ごみ
- 対象地区：市内6地区からサンプリング
- 調査月：令和4年9月

2. 調査結果

全体の調査結果は下表のとおりです。

表1 令和4年度組成分析調査結果

大分類	中分類	小分類	燃やせるごみ	燃やせないごみ	容器包装プラスチック
可燃物	食品ロス	食べ残し	5.2%	-	0.5%
		未利用食品(直接廃棄)	5.4%	1.4%	0.6%
	調理くず		39.0%	-	0.3%
	その他可燃物	紙おむつ類	0.7%	-	-
		リサイクルできない紙類	20.4%	0.2%	0.8%
		布類(リサイクル不可能品)	1.1%	1.6%	-
		草木類	1.3%	1.1%	0.2%
		ゴム・皮革類	0.9%	4.6%	0.1%
	その他可燃物		3.3%	1.1%	0.5%
可燃物小計			77.2%	10.0%	3.0%
不燃物	容器包装非対象プラスチック		1.4%	29.0%	6.8%
	金属類		0.2%	21.1%	0.2%
	小型家電類		0.0%	12.0%	0.1%
	その他	紙パック(アルミ付)	0.4%	0.0%	0.1%
	不燃物	その他不燃物	0.2%	11.8%	0.0%
不燃物小計			2.2%	74.0%	7.2%
資源物	古紙	包装紙・紙袋・紙箱	2.6%	0.2%	0.6%
		その他雑がみ	3.7%	0.2%	0.2%
		その他古紙	2.6%	0.6%	0.3%
	布類		1.7%	1.3%	0.1%
	びん		0.0%	4.7%	0.1%
	カン		0.0%	2.8%	0.0%
	ペットボトル		0.2%	0.1%	1.8%
資源物小計			10.8%	9.9%	3.0%
容器包装プラスチック	フィルム・袋類		5.1%	1.1%	35.9%
	レジ袋		0.8%	0.6%	2.8%
	食品トレイ		0.1%	0.2%	4.1%
	パック・カップ		0.8%	0.4%	30.9%
	その他ボトル		0.2%	1.7%	7.2%
	発泡緩衝材類		0.0%	0.0%	0.8%
	その他容器包装プラスチック		0.3%	1.2%	4.7%
	容器包装プラスチック小計			7.2%	5.1%
有害物			0.0%	0.2%	0.1%
収集不適物(土・砂)			1.8%	-	-
指定ごみ袋			0.8%	0.7%	0.2%
合計			100%	100%	100%

(注) 事業系ごみを含みます。

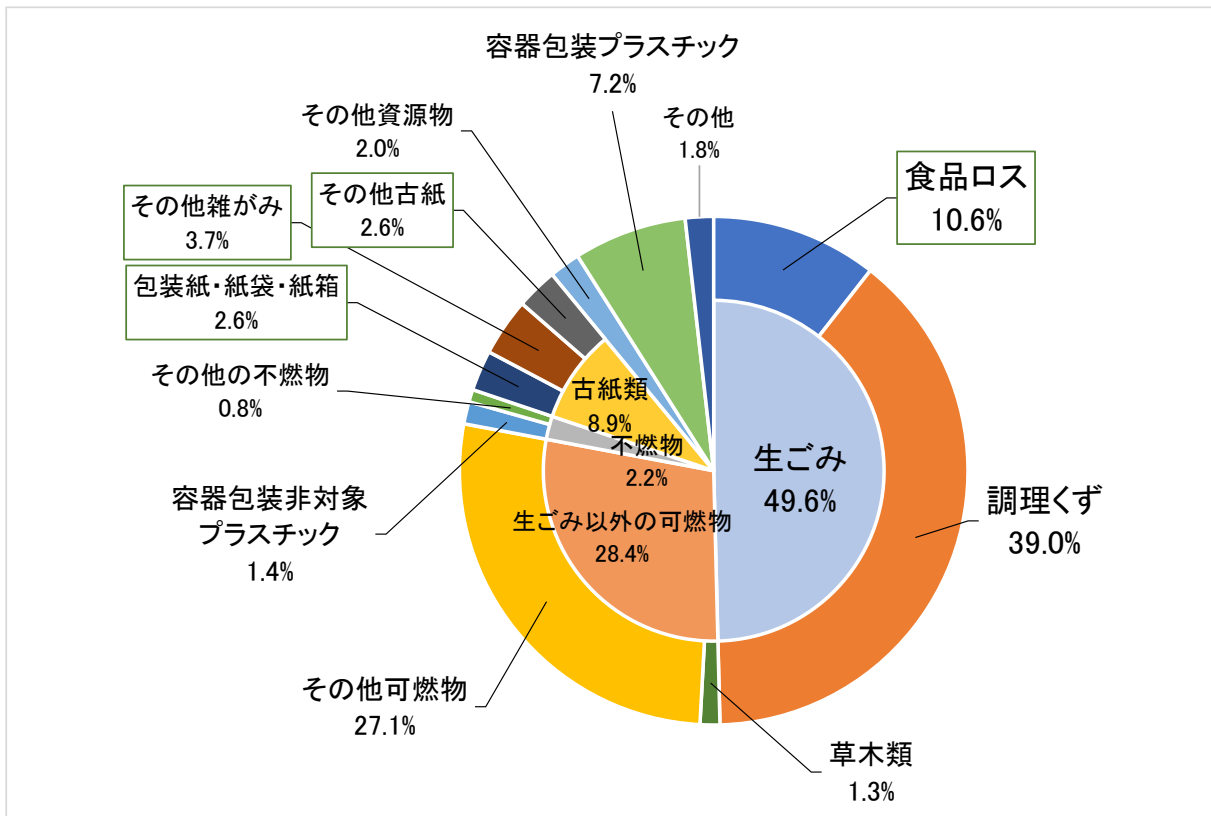
構成比(%)の合算値は四捨五入の関係上、100%にならないことがあります。

正しい分類

(1) 燃やせるごみ（可燃ごみ）

- 燃やせるごみとして正しく分別されている割合は 78.0%（指定ごみ袋を含む）でした。
- 品目別には「生ごみ」が 49.6%と最も多く、その中で食べ残しや未利用食品といった「食品ロス」が 10.6%となっています。
- 資源化可能な古紙類の割合は 8.9%です。その内、雑がみ類は 6.2%でした（「包装紙・紙袋・紙箱」2.6%と「その他雑がみ」3.7%の端数処理を行った合計）。

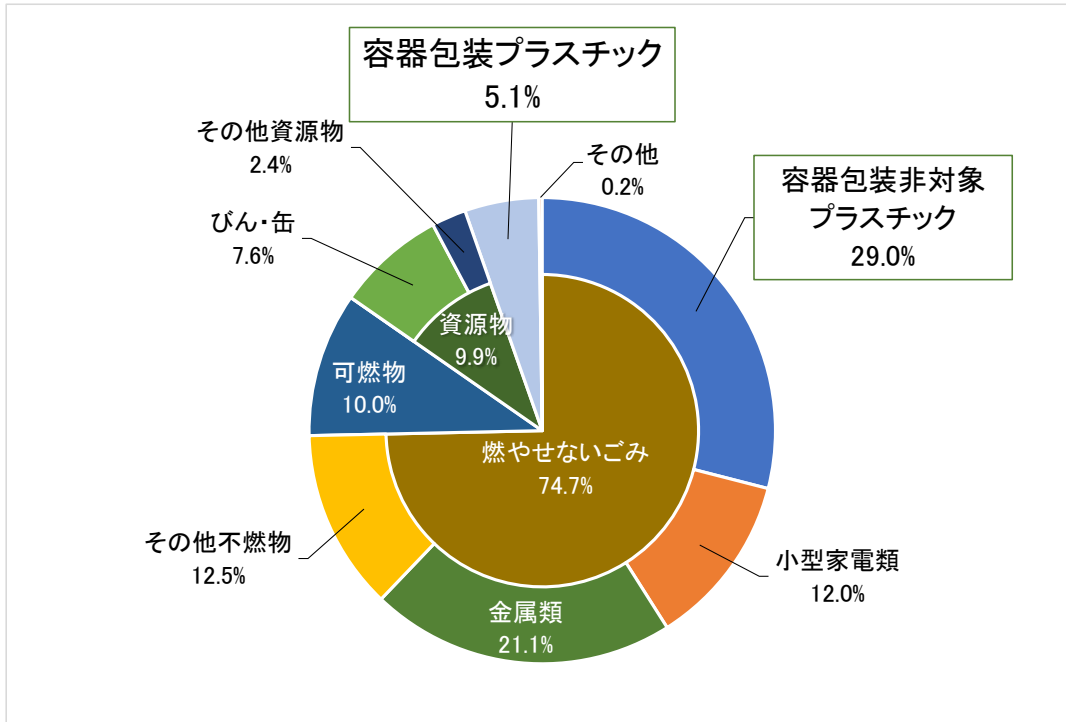
図 1 燃やせるごみの組成



(2) 燃やせないごみ（不燃ごみ）

- 燃やせないごみとして正しく分別されている割合は 74.7%でした。
- 分別が正しくないものの 25.3%の内、最も多いのは「容器包装プラスチック」で 5.1%でした。
- また、正しく分別排出されているものの中で最も多いのは「容器包装非対象プラスチック」（製品プラスチック）で、29.0%でした。

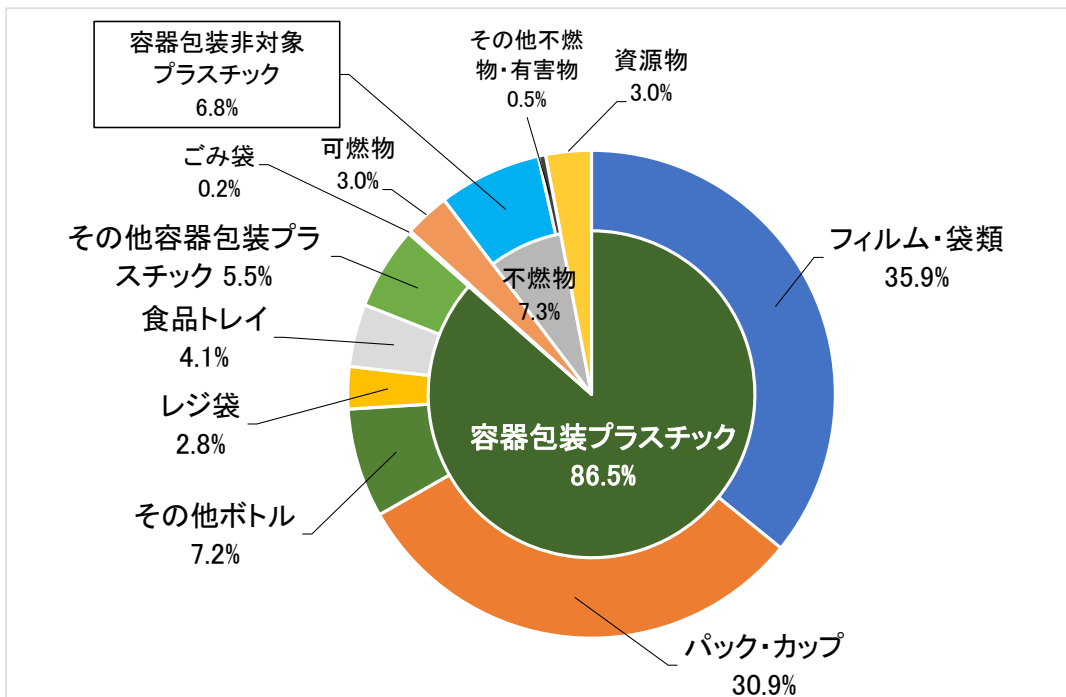
図2 燃やせないごみの組成



(3) 容器包装プラスチック

- 容器包装プラスチックとして正しく分別されているものの割合は 86.7% でした（指定ごみ袋を含む）。
- 分別が正しくないものの 13.3%の内、最も多いのは「容器包装非対象プラスチック」（製品プラスチック）で 6.8% でした。

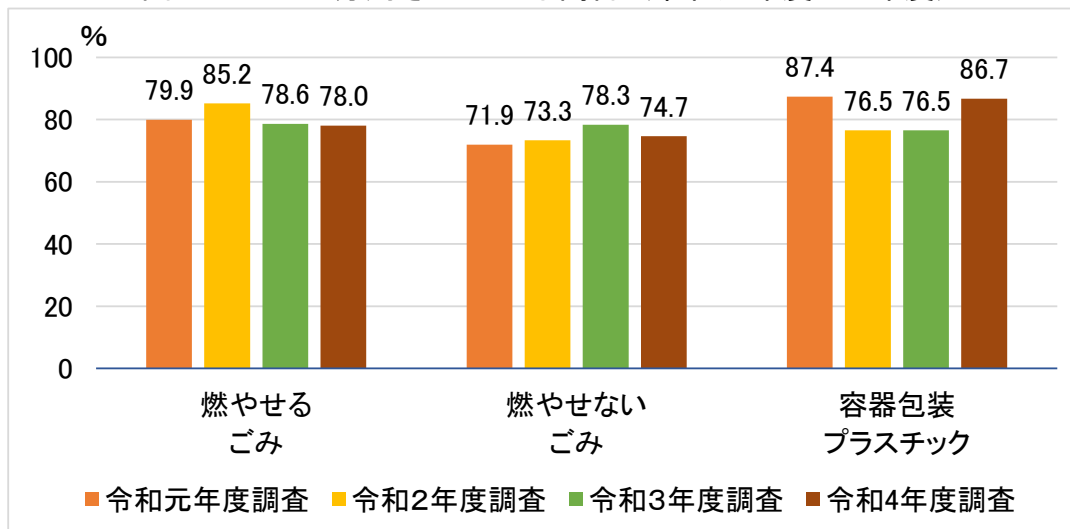
図3 容器包装プラスチックの組成



3. 過去の調査との比較

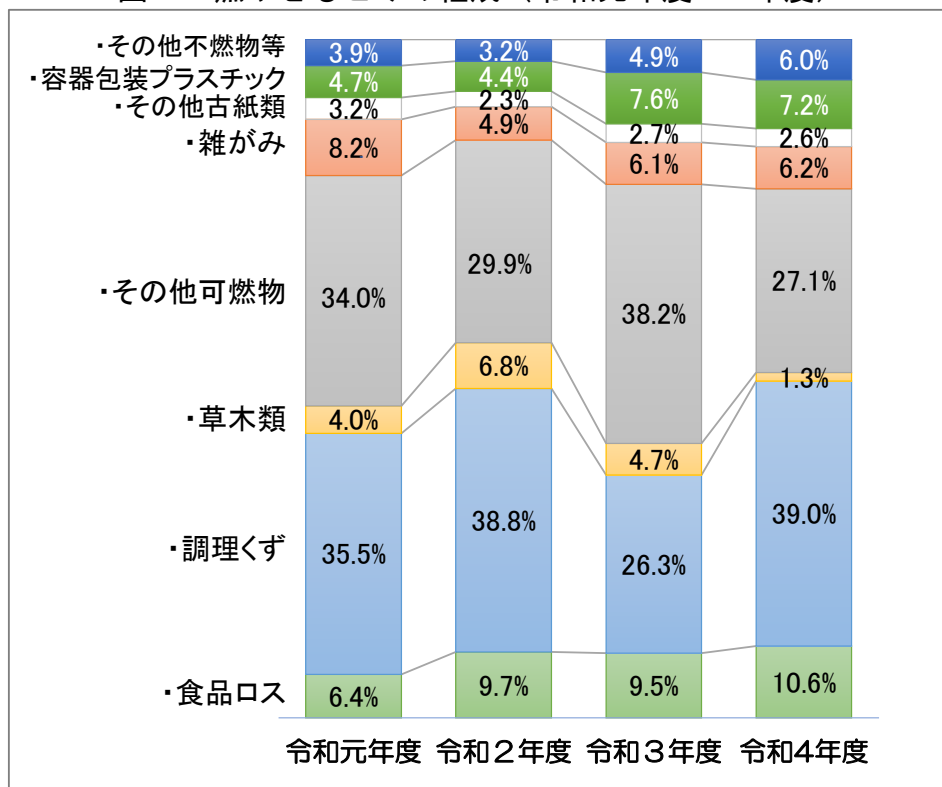
- 正しく分別されている割合は、前年度と比べ燃やせるごみはほぼ横ばい、燃やせないごみはやや低下しました。容器包装プラスチックは、令和元年度調査以来の水準に回復しています。

図4 正しく分別されている割合（令和元年度～4年度）



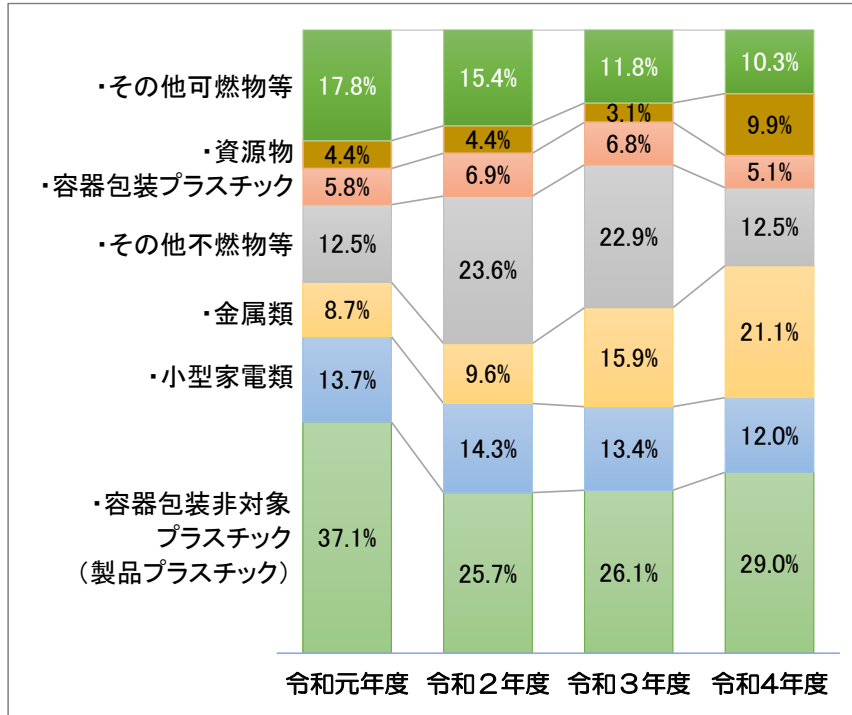
- 今年度の燃やせるごみの組成は、「調理くず」の比率が一昨年度の水準に戻りました。「食品ロス」の比率は増加し、今年度は10.6%となっています。

図5 燃やせるごみの組成（令和元年度～4年度）



- 燃やせないごみの組成は、可燃物の混入が減少している反面、資源物の混入が増えたため、全体として正しく出されている割合が前年度よりも低くなっています。

図6 燃やせないごみの組成（令和元年度～4年度）



- 容器包装プラスチックの組成は、容器包装非対象プラスチック（製品プラスチック）の混入割合が減少し、令和元年度と同水準となりました。

図7 容器包装プラスチックの組成（令和元年度～4年度）

